



TEAM NEXT YONEZAWA



▲米沢稔りの会
ホームページ



▲米沢稔りの会
の取り組み

日本一おいしい無農薬米をつくる

株式会社 米沢^{みの}稔りの会

窪田町東江股 606

☎ 21-8505 (平日 9 時～ 12 時)

沿革

1981 年：米作り研究会として発足

1988 年：食糧事務所 (当時) から特別栽培米として承認

1992 年：「再生紙を使った紙マルチ田植え」のテストを開始

1999 年：県の認証を受ける (以降、毎年認証持続中)

2008 年：皇居新嘗祭の献穀米を生産し献上する

2010 年：ライスセンター建設

2018 年：「株式会社米沢稔りの会」として法人化

2024 年：(株)川島印刷とリブランディング※に取り組み
商品パッケージデザインを変更



副代表
大木拓さん

代表
渡部栄次さん

Message

※リブランディング：商品や企業のブランドを、時代や顧客の変化に合わせて変化させること。本市では、市が主体となる「伴走型リブランディング支援事業」を実施

農耕の大切さを藩民に示すために鷹山公が自ら水田に鍬を入れた「藉田の礼」。その心を伝えたい

減農薬・無農薬栽培の先駆者として

会の始まりは昭和 56 年 (1981)。収穫量を増やすための多収稲作の研究会として発足した。「多収稲作をするには**稲の健康管理**が大切だ」との結論に達すると、当時まだまだ普及していなかった減農薬米の試験栽培を開始。昭和 62 年 (1987) に国が特別栽培米制度を設けると、会も特別栽培米として認定を受け販売を開始。以来、**30 年以上にわたり特別栽培米を生産**している。

米づくりは土づくり

「日本で一番おいしい米を無農薬で」が会の目指すところだ。土に生息する微生物を活性化させ、肥沃な土壌をつくり、**稲が健康に生きる環境を整える**こと。稲本来の生命力を最大限に発揮させることで、おいしい米が出来上がる。微生物の栄養になる有機肥料にこだわり、長い年月をかけて土づくりを続けてきた。

また、農薬・化学肥料を使わない「紙マルチ栽培」に取り組んでいる。紙マルチ田植機を使い、薬品不使用の再生紙を田んぼに敷きながら苗を植える栽培方法だ。苗以外の植物の成長を紙が遮断するので、除草剤を使わずに雑草を抑制できる。紙は徐々に分解され自然に還るため、最後まで自然に優しい栽培方法だ。

おいしさを引き出し、消費者に直接届ける

収穫した米は、**自前のライスセンター**で乾燥・調整・保管。注文、発送に合わせて精米し、最もおいしい状態で**消費者へ直接届ける**。生産から販売までこだわり抜いた取り組みの中で「2018 年やまがた攻めの米づくり日本一運動食味コンクール」のつや姫部門で本部長賞を受賞した。

「あきめない」心を継ぐ米「上杉藉田米」

「どんな米づくりを目指すのか?」。会の発足から 40 年、後継者も入会し世代交代を考える時がきた。会員たちの長い付き合いの中で形成されてきた米づくりの**共通認識**を次の世代に伝えるために、具体的な言葉に示なくてはならない。各生産者がどんな思いで米づくりをしているのか、何度も話し合った。そうして生まれた「あきらめない心が育つ」のキーワード。米沢藩を救った**上杉鷹山公のあきらめない精神**を受け継ぎ、自然を相手にあきらめず米をつくる農家の心意気が詰まった米。**この米を食べた人にもあきらめない心が育つよう**にと願いが込められている。

「お米に限らず、米沢には良いものがたくさんあります。農業が今以上に元気が出るように、あきらめずに盛り上げたいです」

「米沢市役所 TEAM NEXT YONEZAWA」の取り組み

米沢市役所が取り組む米沢品質向上運動の具体的な取り組みとして、市役所への満足度調査「市役所あるあるアンケート」を募集しています。右の二次元コードから米沢市役所 TNY のページに進めますので、そちらのコメント欄に米沢市役所を利用されてお気づきの点などをご記入ください。

関係各課で情報を共有し、より良い市役所を目指してまいります (原則としてコメントへの返信は行いませんのでご了承ください)。

